

文献レビューの書き方②

ー文献レビューのためのストックノートー

第2回は、文献レビューのために、具体的にどんなことから始めるとよいかについてお伝えしたいと思います。ただその前に、そもそも「文献レビューとは何か」について、大木（2013）が述べた以下の文章を紹介します。

「文献レビューとは、過去に行われた研究結果を再検討し、批評し、その概観をまとめ上げることを指します。文献レビューを行うことで、既存の知識体系および研究者の共通認識について理解し、未知の研究課題を見つけ、さらには将来の展望まで提言できる可能性があります。」（大木, 2013）。

文献レビューの進め方ですが、テーマを決定する→論文を集める→文献を読み込む→文献を統合し、ストーリーをつくる→論文にまとめるという流れがあります。この流れは一方向ではなく、行ったり来たりしながら進むイメージです。

文献を読み込み、統合し、ストーリーをつくる作業で役立つのが「ストックノート」です。ストックノートを作成する際、最初は執筆者名ごとの分類でA～ZのExcelシートを作っています。これは年代等でもよいと思いますが、アルファベット順にすると、後々、参考文献・引用文献を作成する際や、分類・整理する際にも便利なのでおすすめです。

参考になった論文は、「得られた知見」「調査方法」「分析方法」などを記録します。例えば「縦断調査のためになされた〇〇の工夫がすごい！」「統制群をつくるための〇〇のやり方は教育現場でも提案できそう」「〇〇という考察の表現は使ってみたい！」という驚きや感動も加えます。キャリアという研究領域では、特に「調査時期」についてもこだわって見るようになりました。

文献のストックがたまってくると、自分の問題意識を改めて明確にするために、試行錯誤をします。研究方法で分類してみたり、対象ごとに結果を比較したり、指導教員や研究仲間等に助言をもらったりすることも有効です。

ストックノートを使ってレビュー論文を作成する際の注意点としては、剽窃・盗用（plagiarism）ⁱです。意図的にすることはあり得ませんが、インターネット

トの普及により、コピー&ペーストが手軽にできるようになりました。しかし、そのアイデアや研究貢献は、著者のオリジナルであり、その利用方法にはルールがあります。文献レビューに限りませんが、剽窃・盗用については、自分の信頼を失わないためにもとても注意が必要です。

上記で述べた作業をすることで、自分の研究の目的や意義を尋ねられ、「これまで研究されていないから研究する」という主張しかできず、「それはする価値がないからこれまでも検討されなかつただけではないのか」と問われ、悔しい思いをすることはなくなりました。

さいごに、研究推進委員会より、『文献レビューのきほん ―看護研究・看護実践の質を高める―』（大木秀一、医歯薬出版、2013年）を教えていただき、大変参考になりました。初学者の方が概要をつかむためにはおすすめの一冊と思いましたので、この場を借りて皆様と共有したいと思います。

i 他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。

(福島大学 富永美佐子)